

【手紙・手記募集：チェルノブイリ救援・中部】

## あなたの思いをチェルノブイリの母たちへ、

## フクシマの母たちへ伝えませんか？

～チェルノブイリとフクシマ 心をつなぎ、風化させないために

2018年2月、ウクライナからチェルノブイリ被災者の母たちが福島の母たちに招かれ、福島と長野、愛知を訪れました。かつてチェルノブイリ救援・中部の呼びかけで、日本の母たちと文通による交流で手紙を書いてくれたカテルリナ・ボウケンさんと私たちのカウンターパート「チェルノブイリの人質」基金のエヴゲーニャ・ドンチェヴァさん。各地の講演で「私たちはチェルノブイリと福島を忘れず、子や孫に語り続けなければなりません」また、「さまざまな巡り合わせの人たちを励ますこと」「友情の手を差し伸べたい！」と日本の母たちに呼びかけています。

私たちはこれまで【チェルノブイリ/フクシマ講座】「チェルノブイリとフクシマ～原発事故被災者と心をつなぐ交流会～」を開催し、『チェルノブイリからの手紙—10年目のチェルノブイリ』を読んできました。ウクライナでは、チェルノブイリ事故から30年の節目に「母親たちの希望の光」キャンペーン（「チェルノブイリの人質」基金）が呼びかけられ、チェルノブイリ被災者の母親から新たな手紙が、福島事故から5年目の日本の母たちへ寄せられました。チェルノブイリから30年を生き抜いてきた母たちが、〈困難を乗り越える強さを持って〉と、日本・フクシマの母たちへ励ましの言葉を綴っています。

### 【手紙・手記を募集します！！】

★あなたもウクライナの母たちと手紙で思いを打ち明け、心を通わせてみませんか？

★放射能と向き合って生きる生活の悩み・辛さや訴えを、記録してみませんか？

★講演会で話を聞いて(読んで)思ったこと、さらに聞きたいことはありませんか？

手紙・手記はチェルノブイリ救援・中部が冊子にまとめ、あなたの思いをウクライナの母たちへ伝えます。ご不明な点はお問い合わせください。

### 【手紙・手記の内容】

①30年を経たチェルノブイリの母たちへ自分の気持ちを伝える手紙

②7年経ったフクシマの母たちへの手紙

③被災しての思い・避難生活の記録

④放射能と向き合って生きる日本の市民としての思い、等



【募集期間】2018年8月30日（第3次締め切り）

【文字数等】自由、ペンネーム可

【送り先】〒460-0012 名古屋市中区千代田5-11-33 STプラザ鶴舞5F-B

NPO法人 チェルノブイリ救援・中部（担当：戸村）

【TEL/FAX】052-222-6813（月・水・金10:00~17:00）

【E-mail】[chqchubu@muc.biglobe.ne.jp](mailto:chqchubu@muc.biglobe.ne.jp) 【HP】<http://www.chernobyl-chubu.jp.org>